

漢方医学の普及

第2期中期経営計画の戦略課題

- 1 漢方の標準治療の拡大と個別化治療の推進による
漢方市場のさらなる成長



診療領域基本処方の浸透を支える価値創造の取り組み

ツムラは、漢方医学の普及を通じて、医師の判断による適切な処方選択を支援するとともに、臨床例の蓄積と医療現場の課題に即した処方提案を推進し、漢方製剤の価値を持続的に社会へ広げています。漢方医学に基づき「診療領域基本処方」を処方する医師の割合を、第2期中期経営計画の最終年度である2027年度に25%、2031年度に50%へ高めることを掲げています。

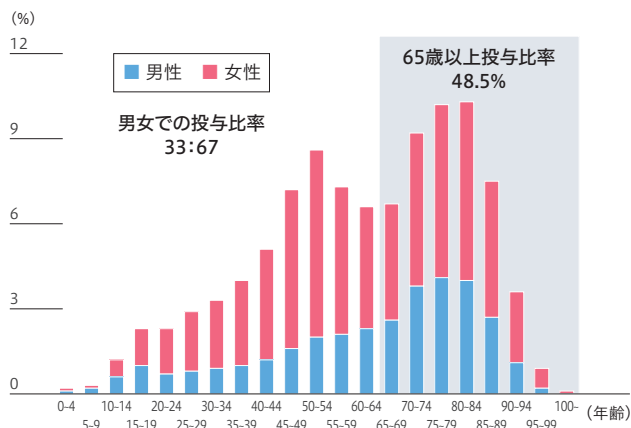
この実現に向け、当社は社会課題に基づくニーズの高い高齢者関連領域、がん領域(支持療法)、女性関連領域を重点領域と位置づけ、エビデンスの構築や漢方医学教育支援、診療課題に即した情報提供を推進しています。がん領域では、高齢化の進展に伴う患者数の増加を背景に、「がんキャラバン」を中核施策として全国展開し、2025年度は年6回開催、各回1万人超の医師・薬剤師が参加する接点を創出しました。さらに、双方向の情報交換を通じて診療課題を把握し、抗がん剤治療に伴う副作用対策を中心とした取り組みを通じて、臨床に即した価値提供を進めています。2026年度は年4回の開催を予定しています。

女性関連領域では、健康診断の問診項目に女性特有の健康課題に関する質問が追加されるなど関心が高まる中、「生理の悩み相談しようプロジェクト」を推進し、賛同施設は約2,000施設へ拡大しました。これにより、受診・相談機会の創出と未治療課題への対応が進展し、診療課題の可視化を通じて医師による適切な処方選択の促進につながっています。

これらの取り組みにより、2025年度末に診療領域基本処

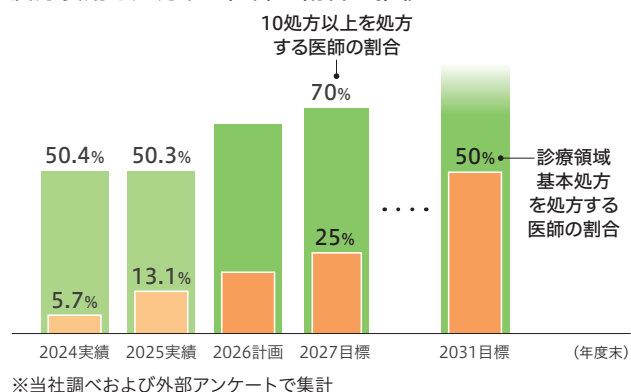
方を処方する医師の割合は前年度末の5.7%から13.1%へと拡大しました。医師との接点拡大と医師一人ひとりにあった情報提供は、当社の持続的成長を支える基盤となっています。

医療用漢方製剤の投薬状況



出所:厚生労働省 第10回NDBオープンデータ

漢方製剤を処方する医師の割合の推移



「がんキャラバン2025」の実績

回	日程	テーマ	主な処方	参加者数	サテライト会場
1	2025年6月	口腔粘膜炎	半夏瀉心湯	約11,000名	約250カ所
2	8月	食欲不振、悪心・嘔吐	六君子湯	約12,000名	約310カ所
3	10月	精神症状	抑肝散／加味帰脾湯	約11,000名	約290カ所
4	11月	全身倦怠感・疲労感	補中益気湯／人參養栄湯	約11,000名	約250カ所
5	12月	末梢神経障害	牛車腎気丸	約12,000名	約280カ所
6	2026年2月	総復習、副作用	まとめ	約11,000名	約270カ所

注力テーマで見る中期経営計画の実行状況

リアルとデジタルの双方を活かし、 漢方の価値を臨床現場に広げていきます

榊原 慎

医療用医薬品カンパニー
医薬営業本部東京支店
病専第一営業所 病専二課



成功体験が広げる漢方の価値

ツムラは、漢方情報を届ける体制づくりと教育支援に力を入れてきました。しかし、大学病院や臨床研修指定病院では医師が多忙であることに加え、診療科ごとに標準治療への組み込み状況やエビデンスの受け止め方が異なるため、一律の情報提供では処方定着に結びつきにくいという課題があります。

こうした中、日々の面談や説明会を通じて、医師一人ひとりの診療課題を把握し、それぞれの状況に応じた情報提供を行っています。とくに、既存治療対応が難しい症例に直面された際、漢方医学の柔軟な対応力に期待を寄せ、有効な選択肢として受け入れてくださる医師が増えています。

このように、個々の診療課題に応じた提案を通じて成功体験を積み重ねることが、漢方医学の価値理解を深め、処方の定着と普及を加速させる原動力となっています。

診療領域基本処方と教育支援が生む普及の流れ

当社では、患者様ごとの病態に着目した「診療領域基本処方」の提案にも力を注いでいます。従来、医療現場では「漢方製剤の選択基準が分からない」という声が多く聞かれてきましたが、診療領域ごとに整理された処方選択の考え方を提示することで、近年は「選択の基準が明確になった」「治療の引き出しが増えた」といった評価につながっています。

また、当社が指導医・研修医向けに展開している漢方セミナーは、若手医師の心理的ハードルを下げるとともに、医療機関の教育・指導体制に漢方が組み込まれる契機にもなっています。



医局説明会の様子

これらの取り組みにより、漢方医学への関心は臨床での実践へと広がり、院内での漢方勉強会の自主的な開催など、漢方製剤が標準的な治療選択肢として根付く動きが広がっています。

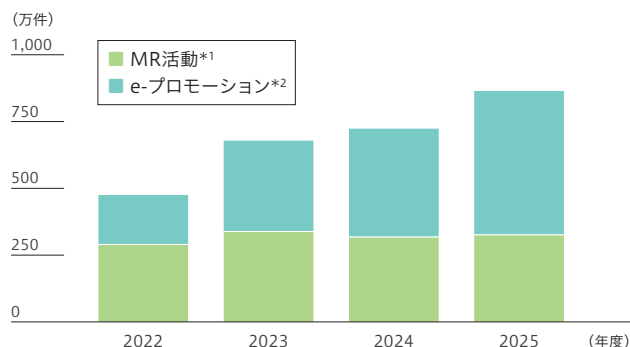
数値化できない文脈を読み解くMRの強み

当社は現在、デジタル技術とMR活動を融合させた、医師ごとのニーズに応じた最適な情報提供に取り組んでいます。医療関係者向けの「ツムラメディカルサイト」の拡充やAIの活用により、医師の専門領域や関心に応じたタイムリーな情報提供を可能としています。

一方で、医療現場では患者様の生活背景や服薬への意識、医師が重視されている治療方針など、数値化が難しい要素が診断判断に大きく影響します。当社のMRは医師との対話を通じてこうした臨床現場の文脈を的確に把握し、それを踏まえた情報提供を行っています。さらに、漢方製剤は効果の現れ方が緩やかな場合も多く、MRは患者様のわずかな変化を医師から聞き出し、理論的に解説できる専門性を備えています。

データとデジタル技術の活用が進む中においても、こうした臨床現場の背景を踏まえた提案力は、当社MRならではの価値であり、質の高い処方提案の実現につながっています。

医師の情報認知件数(ディテールインパクト)の推移



出所：インテージヘルスケア調査「Impact Track」 データ期間：2022年4月～2026年3月
*1 MRを介したディテール、オンライン面談、院内説明会など
*2 MRを介さないオンライン上の情報提供活動